

総合殺菌剤

農林水産省登録 第18750号

石原

フロンサイド[®] SC

広く守り、強く攻める！
—すべては実りのために。—

®は登録商標

根こぶ病をはじめ、広範囲の病害から大切な作物を守ります。

● 適用病害と使用方法 (一部抜粋)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用用量(ℓ)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数	
小麦	紅色雪腐病 雪腐大粒菌核病 なまぐさ黒穂病	1000	60～150	根雪前	2回以内	散布	3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)	
	雪腐小粒菌核病	1000～2000	25					
ばれいしょ	疫病	500		25	収穫7日前まで		4回以内	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付前の土壌混和及び植付時の 植溝散布は合計1回以内、 植付後の散布は4回以内)
	疫病、菌核病	1000～2000						
	夏疫病	2000	100～300					
	軟腐病	1000						
	そうか病	100	—	植付前	1回	種いも瞬間浸漬		
かんしょ	基腐病	1000	100～300	収穫30日前まで	2回以内	散布	3回以内 (植付前は1回以内、 植付後は2回以内)	
やまのいも	葉疫病	2000		収穫7日前まで	4回以内		5回以内 (植付前の土壌混和は1回以内、 植付後の散布は4回以内)	
やまのいも (むかご)				4回以内				
ごぼう	黒条病	1000		収穫21日前まで	3回以内		3回以内	
にんにく	チューリップサビダニ 白絹病			収穫前日まで	1回		1回	
食用ゆり	葉枯病			収穫14日前まで	6回以内		8回以内(球根瞬間浸漬は 2回以内、散布は6回以内)	
	鱗茎さび症	50		—	植付前			2回以内
あずき	炭疽病、灰色かび病 菌核病	1000～2000 1000	100～300	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
いんげんまめ	炭疽病、灰色かび病 菌核病	1000～2000		収穫7日前まで				
べにばな いんげん	灰色かび病	1000		収穫14日前まで				
にんじん	黒葉枯病			5回以内				
らっきょう	灰色かび病	1000～2000		5回以内				
たまねぎ	乾腐病	50	—	定植直前	1回	5分間苗根部浸漬	7回以内 (全面土壌混和は1回以内、 苗根部浸漬は1回以内、 散布は5回以内)	
	灰色腐敗病 べと病、灰色かび病	1000～2000	100～300	収穫3日前まで	5回以内	散布		
	灰色かび病	250～500	25					
	てんさい	白色疫病	1000	100～300	収穫30日前まで	4回以内		株元散布
褐斑病		1000						
根腐病		1000～2000	1000					
黒根病		100	3ℓ/㎡				移植前	
いちご	炭疽病	1000	50㎖/株	育苗期	1回	灌注	1回	
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病 斑点病	2000	100～300	収穫終了後 但し、秋期まで	5回以内	散布	5回以内	
ゆり	茎腐症 (リゾプス菌による)	500	3ℓ/㎡	定植後	2回以内	土壌灌注	3回以内	

作物名	適用病害名	10アール当り使用量		使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数
		薬量(mℓ)	希釈水量(ℓ)				
はくさい	根こぶ病	500	100~200	定植前	1回	全面散布土壌混和	2回以内 (土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
	尻腐病 軟腐病			定植前	1回	全面土壌散布	2回以内 (土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
キャベツ	根こぶ病	500	100~200	は種または 定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面散布 土壌混和	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病			定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面土壌散布	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
ブロッコリー カリフラワー	根こぶ病	500	100~200	定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面土壌散布	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
かぶ	根こぶ病			定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面土壌散布	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	500	100~200	は種前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面散布 土壌混和	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
レタス 非結球レタス	ビッグベイン病 すそ枯病			定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	全面土壌散布	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
ばれいしょ	粉状そうか病	400~600	20	植付前	1回	全面散布 土壌混和	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付前の土壌混和及び植付時の 植溝散布は合計1回以内、 植付後の散布は4回以内)
	粉状そうか病 そうか病	200		植付時	1回	植溝散布	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付前の土壌混和及び植付時の 植溝散布は合計1回以内、 植付後の散布は4回以内)
かんしょ	基腐病	500	50~200	植付前	1回	全面散布 土壌混和	3回以内 (植付前は1回以内、 植付後は2回以内)
やまのいも	褐色腐敗病	500	100~200	植付前	1回	全面土壌散布	5回以内 (植付前の土壌混和は1回以内、 植付後の散布は4回以内)
小麦	縞萎縮病	600	100	は種前	1回	全面散布 土壌混和	3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)
	なまぐさ黒穂病	600		は種前	1回	全面散布 土壌混和	3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)
チューリップ	微斑モザイク病 条斑病	500	100~200	植付前	1回	全面散布 土壌混和	7回以内

● 使用前にラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。※ 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。



石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号

ホームページ アドレス <https://ibj.iskweb.co.jp>



石原

フロンサイド[®] SC

殺菌剤分類

29

有効成分:フルアジナム…39.5%(w/w)

人畜毒性:普通物

(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■ 使用上の注意事項 (一部抜粋)



- 使用直前に容器をよく振ってください。
- 本剤は保護効果主体の薬剤であり、病原菌に感染した後の散布では効果が不十分な場合がありますので散布時期に注意してください。
- いちごに使用する場合、新葉に葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
- きゅうり、レタス等には葉害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意してください。
- 全面散布土壌混和で使用する場合、所定量の薬量を均一に散布し、土壌と十分混和してください。降雨直後の処理は、混和むらの原因となるのでさけてください。
- 根こぶ病対象に本剤を多量に使用すると初期生育が抑制される場合がありますので、適用薬量の範囲で使用してください。
- 全面土壌散布で使用する場合は、畦立て作業後に所定量の薬量を均一に散布してください。
- キャベツ、はくさい、レタスおよび非結球レタスの全面土壌散布では、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後回復し、作物の生育、収量に影響はありません。(定植後の多雨または過度の灌水条件で発生しやすい)
- だいこんに使用する場合は、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後の生育には影響しません。
- 小麦、ばれいしょ、たまねぎに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適したノズルを装着した兼用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- **本剤は皮膚感作性があり、皮膚かぶれ等を起こすことがあるので、使用前にはラベルをよく読んでください。**
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤は眼および皮膚に対して刺激性があるので薬剤が眼に入ったり、皮膚に付着しないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。皮膚に付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。

魚毒性等:

- ・水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- ・水産動植物(甲殻類・藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- ・浸漬後の薬液は河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

本印刷物は、2025年6月時点での知見に基づいて作成しています。